

令和 6 年12月24日 第10回野生イノシシ豚熱対策検討会

令和 6 年度家畜衛生ポスターデザインコンテスト 実施報告

農林水産省 消費・安全局動物衛生課
野生動物対策班

1. ポスターデザインコンテスト開催の経緯

家畜伝染病対策はマイナーすぎる。

これまでの周知の例

- ・空港での旅行者を対象としたポスター
- ・アウトドア対策のためのポスター・ちらし（「いらすとや」等フリー素材を利用）
- ・検疫探知犬の活躍をテレビ放映
- ・Youtubeでの動画配信
- ・マンガの作成
- ・著名人を招いたイベント（山でのごみ捨て防止対策：野口健さんを招いたイベント）

☹️ 広報は大切だが予算化は難しい。

☹️ 過去に事業等で作成した広報資材は改編が難しい。



何も対策を取らないわけにはいかない。

効果的に

子どもからおとなまで、みんなに対策の大切さを広めるイベントはできないか？

安く



ポスターデザインコンテストはどうか？

2. 開催概要

かちくえいせい
令和6年度 **家畜衛生**
ポスターデザインコンテスト
だいぼしゅう
大募集
ぶたねつ かんせんぼうし
テーマ **アフリカ豚熱感染防止**
国内外からの観光客等に向けた、アフリカ豚熱感染防止への協力意識を高めるデザインのポスターを募集します
アフリカ豚熱とは？
イノシシや豚が感染する感染率や死亡率が高い病気です。
特にイノシシへの感染は、豚への感染源となるため、
みんなで対策をしていく必要があります。
<対策例>
・イノシシの呼びよせや病気への感染を防止するため、野山にごみを捨てない
・靴によるウイルス拡散を防ぐために登山靴の土は下山の前に落とす
・豚が飼われている施設へは近づかない
※イノシシの保護を目的とするポスターではありません。
応募資格 制限なし
募集期間 令和6年7月16日 火 ~9月30日 月
賞
農林水産大臣賞
中央畜産会長賞、大日本猟友会長賞、日本獣医師会長賞、日本養豚協会会長賞 他
詳しい募集要項はこちらをご覧ください
https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/eisei_poster.html
お問い合わせ先 農林水産省動物衛生課 TEL: 03-3502-8111 (内線4583)
E-mail: eisei_poster@maff.go.jp
※このチラシは審査員の一人である「みふねたかし先生（いらすとや）」のイラスト素材を使用しています
農林水産省

主催：農林水産省

後援：環境省

テーマ「アフリカ豚熱感染防止」

【対策例】

- ①イノシシを誘引しないよう野山では残飯は持ち帰りましょう
- ②ウイルスは土にも含まれます。靴の泥は下山の前に落としましょう。
- ③家畜がいる施設に近づかないようにしましょう。

応募条件

募集対象：絵画・イラスト・CG・写真などの平面作品

応募資格：制限なし

賞の設定

- ・農林水産大臣賞（通常、3年の実績が必要。）
- ・消費・安全局長賞
- ・中央畜産会長賞
- ・大日本猟友会長賞
- ・日本獣医師会長賞
- ・日本養豚協会会長賞
- ・動物検疫所長賞

重要性をアピールしたい！

応募作品を増やしたい！

コンテストの開催自体を周知に！

2. 開催概要

審査基準

テーマの理解

「アフリカ豚熱感染防止」について
正確に理解しているか

- ・アフリカ豚熱やその対策を正しく理解しているか。

表現

「アフリカ豚熱感染防止」について
適切な表現がなされているか

- ・不快な表現はないか
- ・誤解を招くような表現がなされていないか。

印象

審査員独自の感性による評価

- ・審査員の独自の感性により印象的な作品かどうか。

デザイン性

ポスターとして優れたデザインであるか

- ・デザインがすぐれているか。
- ・デザインに独自性があるか。
- ・レイアウト、配色などが効果的なデザインか。

アピール性

早く家畜衛生の協力を促せる
ポスターであるか

- ・人の注意を引く作品であるか。
- ・ポスターを目にした人が、アフリカ豚熱対策の重要性を理解し、適切な対策に取り組もうとを感じる作品となっているか。

審査委員

石川 清康

農林水産省動物検疫所 所長

植竹 香織

ポリシーナッジデザイン合同会社 代表

勝田 賢

農研機構動物衛生研究部門 所長

津田 知幸

家畜衛生部会牛豚等疾病小委員会 委員長

平田 滋樹

農研機構畜産研究部門動物行動管理研究領域 上級研究員

みふね たかし

いらすとや イラストレーター

親しみやすいデザインや
ナッジ※を重視した審査を実施

※ナッジ

人間が選択するときに生じる「偏り」や「間違い」を体系的に整理し、「行動経済学」の知見を応用して、行動変容を目指すもの。例えばレジ前等で整列を促す足跡マーク。

3. 審査結果

農林水産大臣賞



東京都 小学校2年生

私はお肉が大好きです。私たちが登山でする何気ない行動からイノシシやブタ肉が困ったことになるを知り、母からすすめられたポスターをかいてみました。ルールを守ってこれからも楽しく登山をしたり、おいしいブタ肉を食べたいです。

審査員コメント

「～してくれてありがとう」という互惠性を活用したメッセージは、ポスターを目にした人の協力的な態度を引き出すことができると期待される効果的なメッセージだと感じました。適切な行動をしなかった結果も分かりやすく示されており、行動をとる必要性を認識することができる内容になっています。山や豚、楽しむ人もルールを守って笑顔で楽しむ様子がポジティブで望ましい姿を例示していて、より自発的な行動変容を促すことが期待できます。

その他の受賞作品は【参考資料5】をご覧ください。

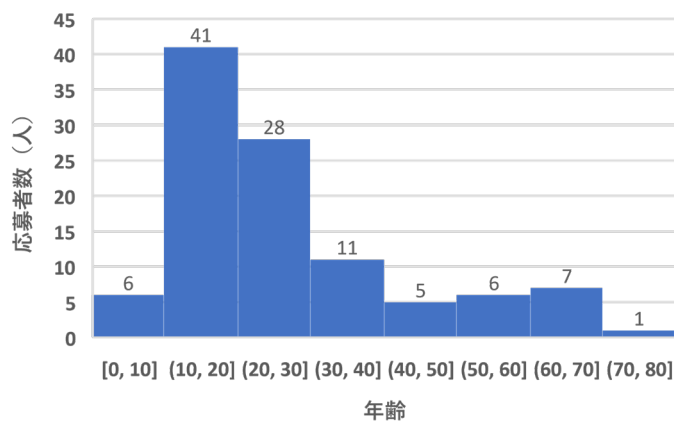
4. 開催を終えて

総作品数：130点

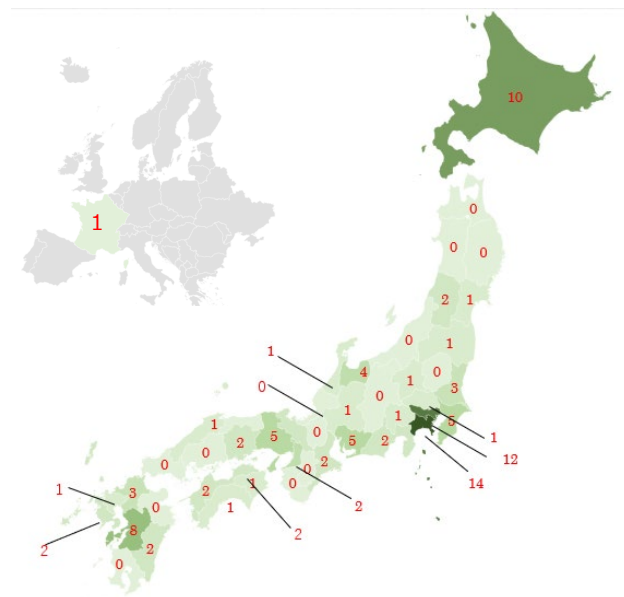
- ・全体としてアフリカ豚熱をよく理解して作成されていた。
- ・適切な行動を促せる作品が多かった。
- ・対策がどのように国民への生活に寄与するかが分かる作品は少なかった。

総応募者数：105名

- ・10代が最も多く、20代、30代、40代と減少し、60代に向け増加する。
- ・最年少は5歳、最年長は72歳。
- ・北海道からの応募者が多かった（10代4名、20代5名、30代1名）。



【応募者の年齢分布】



【応募者の居住地分布】